

「遺された親」として、今

大角 希伊子

言わないで下さい

言わないで下さい

「さびしいでしょう。」なんて

あなたのお子さんが果外の

大学へ行ってさびしいのと

同じにしないで下さい

言わないで下さい

「元氣になって良かった。」なんて

笑顔をつくってはいても

心は血を流しているんです

言わないで下さい

「お子さんの分まで生きて。」なんて

私の命とひきかえに

あの子に助がうってほしかったんです

言わないで下さい

「交通事故で良かった。」なんて

交通事故だから、加害者は

人を殺しても許されるんですか

言わないで下さい

「この世のすべては必然。」なんて

娘の命が奪われることは

とうに決まっていたというんですか

言わないで下さい

「子どもの死を無駄にするな。」なんて

あなたのその言葉こそが

私には一番の無駄に思えます

やめて下さい

あの子を過去のことにしないで下さい

あの子は、まだ私の中で

ちゃんと生きていますから

※『もう一度会いたい(遺族の手記) 第5集』

(社)被害者支援都民センターに掲載

### ～飲酒運転で実刑判決を受けたKさんの手記より抜粋～

※NPO法人ASK(アルコール薬物問題全国市民協会)HPに掲載  
(URL⇒ <http://www.ask.or.jp>)

#### 甘かった認識

私は、飲酒運転を犯し、現在絶望と失意の日々を送っております。

お酒を飲んでも自分は運転がうまいし、酔わないから、運転しても事故さえ起こさなければ大丈夫・・・そんな風に考えることが恐ろしい過ちであることを、私は身をもって知りました。アルコールの影響下で運転をすることは、その事を認識していないにもかかわらず、運動能力、判断力など、運転する上で重要な鍵を握る各種の能力を著しく低下させ、第三者を巻き込む重大な事故を起こす可能性をもちます。

私の身に起こったことは、起こる寸前まで私の日々の暮らしからは想像がまったくできないものでした。

#### 失ったものの大きさ

社会的地位も、経済的基盤も失い、呆然と反省することしか私にはできません。人生の全てが根元から変わってしまいました。違反を起こした日に戻れるなら、飲酒して運転することなど死んでもしない。しかし、どれほど望んでも時計の針を戻すことはできない。なんということ自分分はしてしまったのか。そんな砂を噛むような思いに苛まれながら、毎日時間が過ぎていきます。

お酒を飲んで運転し事故を起こし第三者を巻き込むことにより、一生を棒に振ってしまう人が後をたたないだけではありません。もし、幸いにして私のように事故を起こさないとしても、お酒を飲んで運転をすることは重大かつ深刻な犯罪であること、その行為を罰する法律は谷敷なく厳格であることを忘れてはならないと思います。

そして、それは、あなたの人生にも起こりうることだということも。

# 日高の遺書

私はもう生きてゆくこんきも力もなくなりました。

署長様、ご承知のように私の夫も死にました。そして相手の人も死にました。夫は自業自得でありましょうから如何ようにせめられてもしかたありません。でも、あとに残った私と子ども二人にまでその責任があるのでしょうか。

私に財産がたくさんあれば、ご遺族の方の気の済むように弁償したいと思います。いくらお金をあげたからと言って亡くなられた人の命を元通りにすることは出来ませんが……。

でも私には何もありません。それでも将来家をたてるために貯金していたお金が九十七万円程あったのでございます。それで私はこのお金とテレビ、冷蔵庫、洗たく機、洋服ダンス、時計、指輪、夫の洋服等も売りました代金二十三万円と合わせて百二十万円をお見舞金としまして、また夫の退職金をも全部差上げる条件でご遺族の家に持っていったのでございます。

ご遺族のご両親は「こんな少額では納得できないからもっとお金をだささい」と申します。

私はこのお金が私の全財産でございましてこれ以上のお金を調達することはできませんので幾重にも私の事情を申し上げたのでございます。

ご遺族のご両親は親戚回りをしても賠償金をだささいともうします。でも、夫の親戚も私の親戚も決して余裕のある生活はしていませんのでぼう大な金額を調達することはとうてい出来ないののでございます。

すると次は私に働いて毎月一万円ずつ弁償しなさいと申します。

私のような学歴もなく手職もない人間に何万もする給料を払ってくれるところがありましようか。たとえ就職することが出来ましたところで、弁済金と家賃を払ってしまうと生活費にまですわすことは出来ないののでございます。どうして親子三人生活すればよろしいのでしょうか。罪のない子どもたちと生活だけは近所の子供たちと同じようにしてあげたいと願うのは母として当然のことではないのでしょうか。

子供たちは「お父さんはどうしたの」「なぜテレビがなくなったの」「テレビがみたい」とせがまれます。子供たちは今すやすやねむっております。これからお父さんのもとに行けるのも知らずに！

署長さん、この小さな子供の命をうばう母をばかな女とおよび下さい。でも、子供をのこしたなら、あとの子供たちの生活を考えるとあわれでなりません。親子三人でお父さんのもとにまいります。

ご遺族のご両親のおっしゃることは決してご無理なことではありません。私の夫さえ、酒を飲まずに運転していたならば、決してご子息様を死なせずに済んだのでございます。

私と子供二人の命とひきかえに夫の罪をおゆるし下さるよう、ご遺族のご両親様におとりはかりくださいますようお願い申し上げます。

45年6月、北海道日高管内S町の国道で、38歳の社員が酒酔い運転で追越しをかけ、対向車と正面衝突し相方とも死亡した。

この酒酔い運転の家族は妻(32歳)と5歳及び3歳になる二人の子供がおり、それまで明るい平和な生活をおくっていたが、この事故により一瞬にして幸せな生活が崩れ去り、前途を悲嘆した妻は警察署長宛に遺書を残し、可愛い二人の子供を道連れに自殺した。

これはその時の遺書である。

「ドーン」「バリーン」ほんの一瞬でした。

私は1月中旬、昼間の現場作業を終え、その夜にある緊急工事のために家にも帰らず、会社の事務所で夕食を済ませ、夜間の緊急工事に向かいました。工事も無事に終わり、朝方の午前4時頃、会社の事務所に着きました。前の日の昼間から朝まで頑張っていたので、専務さんが「お疲れ」とつまみと350ミリリットルの缶ビール3本をくれました。それをいただいた後、とても疲れていたため、そのまま事務所の椅子で寝てしまいました。

2時間半たった頃、目が覚め時刻は午前7時少し前でした。私はそこで家に帰れば良かったのですが、しばらく寝て疲れがとれた感じだったので、緊急工事で借りてある照明器具が4トンダンプに載せたままだったのを思い出しました。昼間には作業する人たちのために、借りてある器具をレンタル会社へ返しに向かいました。途中、小腹が空いたので親のところに寄りご飯を食べ、再びレンタル会社に向かい走り始めました。

会社までは順調に行けば20分位で着く距離でした。走り出してすぐに車内が暖房で暖かくなりました。満腹感もあり、体が疲れているせいと3時間前に飲んだアルコールもあり眠気が襲ってきました。「慣れている道だし、会社に戻れば今日は休みだから頑張れ」と自分を励まし、頬をたたき、足をつねったり、眠気と戦い運転を続けていました。

道路は上りで直線から少し右カーブ、そこで私の4トンダンプの左前タイヤが縁石に「ドーン」と当たり、元の道路にはじき戻されました。「ドーン」とともに目覚め、訳も分からずハンドルを回していたのですが、はじき戻されている途中に人の影のようなものが見え、左サイドミラーが「バリーン」と割れました。ほんの一瞬の出来事でした。車が普通に道路に戻った時点で止まれば良かったのですが、30メートル位走った所で、後を振り返りましたが、人の姿も見えなかったので「大丈夫だ、でも、もしかしたら……」と恐くなり、その場を走り去ってしまいました。

その後、5分位走った所で赤信号で止まっている所に、後から走ってきた車の方に「あんた、さっきの交差点すごいことになっているよ」と聞かされました。

「まさか！やっぱり」と思い急いでUターンして現場に恐る恐る戻りました。ほんの10分位しか経っていないのに、現場では既に警察の方がいて被害者の姿はありませんでした。現場を見た瞬間「やってしまった。俺がやってしまったんだ」と確信し、その場にいた警察官に自首しました。いろいろなことが頭に浮かび、自分の責任感の無さが思い知らされた瞬間でした。

そのまま逮捕され取り調べの最中、被害者の方はほぼ即死状態だったと聞かされ、私は体が震え自分が死んでお詫びしなければと思いました。

被害者の方は仕事に向かう途中で、押しボタンの横断歩道で青になるのを自転車にまたがり待っていたそうです。3人の娘の母親で、やっとお子さんが大人になり手が離れ、娘さんの晴れ姿を楽しみにしていた人生を、私の自分勝手な行動ですべて奪い去ってしまったのです。

更に1年も経たずに、今度はお父様も亡くなりました。これは私のせいで心労や寂しさが重なり、二次被害を与えてしまったと思いました。家族を失った人の傷は計り知れず、とても深く重いものだと思います。そして、被害者だけでなく、私の周りの人たちにも被害を与えてしまいました。

私自身が何かを失うことは当然のことですが、妻、両親、兄弟、会社の皆さまにも大変な迷惑を掛けてしまいました。中でも仕事上の事故ということで会社は罰金、1ヶ月間指名停止で仕事がもらえず、専務さんも中期免停になりました。そして、一番は会社の信用、信頼というお金では手に入れられないものを失うのが大きかったと思います。後悔先に立たずとは本当です。私自身の気持ちの中に、遵法精神が欠けていたからだったと思います。

私は懲役2年半の判決を受け、この受刑生活で責任のある行動、我慢、耐え忍ぶこと、相手の気持ち、ルールの大切さなどを学びました。ここを一步外へ踏み出したその日から、本当の償いのスタートだと思います。今後、ご遺族に謝罪、お詫びに伺ったとき、どう対応されるか分かりませんが、二次被害を与えないよう、ご遺族の気持ちを考え、自分が出来る償いをしたいとは思いますが、あれこれしても償いきれないとは思いますが、誠意ある行動をしていき、私自身の気持ちを伝える努力をしていかなければと思います。

また、こんな私の代わりに謝罪をしてくれたり、辛い思いをしながら帰りを待っていてくれる妻をはじめ、皆さまに感謝の気持ちを忘れずに、少しずつでも恩返しをして生きていきたいと思っています。

## ディズニーランドのお子様ランチ

東京ディズニーランドにある若い夫婦が訪れました。そしてディズニーランド内のレストランで彼らは「お子様ランチ」を注文したのです。もちろんお子様ランチは9歳以下とメニューにも書いてあります。子供のいないカップルに対してはマニュアルではお断りする種類のもので、当然の如く、「恐れ入りますが、このメニューにも書いてありますが、お子様ランチはお子様用ですし、大人には少し物足りないかと思われま



すので・・・」と言うのがマニュアルです。

しかし、アルバイト（キャスト）の青年は、マニュアルから一步踏み出して尋ねました。「失礼ですが、お子様ランチは誰が食べられるのですか？」

「死んだ子供のために注文したくて」と奥さんが応える。

「亡くなられた子供さんに！」とキャストは絶句しました。

「私たち夫婦には子供がなかなか授かりませんでした。求め続けて求め続けてやっと待望の娘が産まれましたが、身体が弱く一歳の誕生日を待たずに神様のもとに召されたのです。私たち夫婦も泣いて過ごしました。子供の一周忌に、いつかは子供を連れて来ようと話していたディズニーランドに来たのです。そしたら、ゲートのところで渡されたマップに、ここにお子様ランチがあると書いてあったので思い出に・・・」そう言って夫婦は目を伏せました。

キャストのアルバイトの青年は「そうですか。では、召し上がって下さい」と応じました。そして、「ご家族の皆さま、どうぞこちらの方に」と四人席の家族テーブルに夫婦を移動させ、それから子供用の椅子を一つ用意しました。そして、「子供さんは、こちらに」と、まるで亡くなった子供が生きているかのように小さな椅子に導いたのです。

しばらくして、運ばれてきたのは三人分のお子様ランチでした。キャストは「ご家族でゆっくりお楽しみください」と挨拶して、その場を立ち去りました。

若い夫婦は失われた子供との日々を噛みしめながら、お子様ランチを食べました。

このような行為はマニュアル破りの規則違反です。しかし、東京ディズニーランドでは先輩も同僚も彼の行動を咎めません。それどころか彼の行為はディズニーランドでは賞賛されるのです。マニュアルは基本でしかありません。マニュアルを超えるところに感動が潜んでいるのです。

この出来事に感動した若い夫婦は、帰宅後に手紙を書きました。

「お子様ランチを食べながら涙が止まりませんでした。まるで娘が生きているように家族の団欒を味わいました。こんな娘との家族団欒を東京ディズニーランドでさせていただくとは、夢にも思いませんでした。これから、二人で涙を拭いて生きて行きます。また、二周忌、三周忌に娘を連れてディズニーランドに必ず行きます。そして、私たちは話し合いました。今度はこの子の妹か弟かをつれてきつと遊びに行きます」と言う手紙が東京ディズニーランドに届きました。

実話だそうです。